

**東京大学 21 世紀 COE プログラム**  
**先進国における《政策システム》の創出**  
**特別講演**

報告者：バーナード・クリック名誉教授（ロンドン大学バークベック校）

主題："Democracy and Populism"

日時：2004 年 4 月 24 日（土）14 時～16 時

共催：東京大学政治学研究会

**講演要旨：**

政治とは、既存の価値ないし利益が調停される活動であり、差異の存在の認識が前提にある。そこでは多様な価値をどのように組み合わせるかという現実の課題に加え、政府によって統合が強制されることを否定するという倫理的な課題も無視できない。またシチズンシップとは、公的討議を通じて統治を行う上で必要な、人々の間の自由な活動である。アリストテレスの唱えたポリス、そしてルソーの一般意思という伝統を経て、さまざまな価値を折衷し、妥協を図る上で中間的な制度の果たす役割の重要性が認識されるに至った。だが、政治的妥協が人々の情緒を犯すようなことがあれば、官僚制をはじめとする諸制度に対する反発が生じる。したがって、民主政治においては、一方で、レトリックではない偽りのない証拠や事実に基づいて、どんな行動をとれば何が起こるのかを提示しなければならないし、しかも人々の共有する情緒や感覚から離れてはならない。こうした条件が失われるとき、手続を経ることに不寛容なポピュリストやデマゴーグが登場してしまう。ポピュリズムとは、政治的妥協を嘲笑うかの如き誤った偶像崇拜であると言えよう。その意味で、シチズンシップ教育とは、善良な市民の養成よりも、むしろ討議を通じた政治的妥協を行う上で必要な技巧、知識そして経験を身に付けた活動的な市民の養成を目的にするものだと言えるだろう。（森 聡）